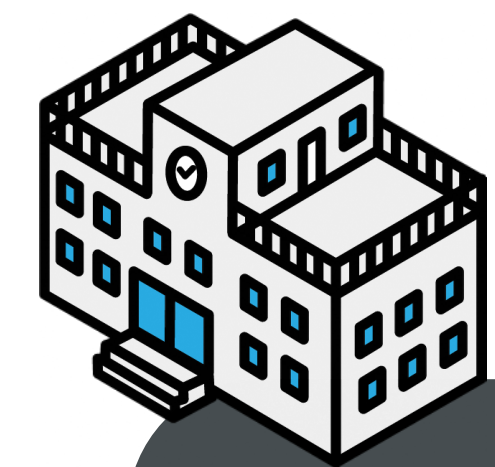


Uwajima∞Aidai Project



宇和島東高校 森藤 董 中尾 純蓮
宇和島市立城北中学校 田中 恒太 徳山 美咲
愛媛大学 白井 さくら 西川 亜純 小野寺 弘倫 小山 杏子

プロジェクトの概要

今年度のうわじま∞あいだいプロジェクトでは、来年度から廃校になる喜佐方小学校の校舎が、喜佐方公民館として利用されます。その活用方法を宇和島の中高生と大学生が考えるという内容になっています。

第1回では、中高生と大学生のアイスブレイクを行ったり、大学生の普段の取組を紹介したりしました。
また、愛媛大学の井上教授から「社会と関わる意義」についてのお話をいただいたり、ホリバタの村尾さんと首藤さんから「公民館とは」「喜佐方地区とは」についてのお話をきいたりしました。

第2回では、浦和大学の林大介教授にお越しいただき、「子ども基本法」についての講義をしていただきました。自分の考えが社会を変えるきっかけにもなると学び、ますますプロジェクトへの参加意欲も高まりました。



フィールドワークの内容

第3回で、南四国ファーム、JA選果場見学、喜佐方小学校の見学を行いました。



南四国ファーム

南四国ファームでは、みかん農家の方の思いや願いを知ることができました。240年間変わらず、よりおいしいみかんを作ろうという思いを聞きました。また、新しい取組として、売り物にならないみかんをゼリーやジュースなどの加工品にして、無駄を減らしながらも、もっとたくさんの人にみかんを知ってもらおうという願いに心を打たれました。



JA選果場

JA選果場では、みかんがどのように選別されているのかについて見学しました。たくさんの技術を駆使し、消費者によりおいしいみかんを届けるために尽力されていることがよくわかりました。
実際に甘いみかんや酸っぱいみかんを食べさせていただき、機械の正確性に驚かされた学生が沢山いました。



喜佐方小学校

喜佐方小学校の見学では、これから公民館にしていくための下見をすることができました。次の活動のヒアリングに生かすことができました。

喜佐方地区の地域的特色や、これから活用する施設の下見をすることができ、どんな公民館にすればいいのか考える第一歩になったフィールドワークでした。次の活動のヒアリングにも生かすことができました。

聞き取りの内容



第3回のうわじま∞あいだいプロジェクトでは、喜佐方公民館にゆかりのある方にお話を伺いました。私たち5班は公民館理事の方と宇和島市役所の方によりよい喜佐方公民館にするための話し合いをしました。
お話を聞いた方は、喜佐方公民館の移転に深く関わり、きさがた公民館の活動をよく知っている方です。

・太陽の広場の継続

太陽の広場とは、地域の方が小学生向けにキャンプやクリスマス会を行う行事のことです。

◎喜佐方公民館がリニューアルしても、子供たちが様々な人と交流できるように活動を続けたい。

△喜佐方小学校がなくなると、喜佐方地域の子どもがいなくなるので、どの地域の子ども達を太陽の広場の活動に参加できるようにするのが難しい。

・教室の保存

せっかく小学校を利用するのだから、教室の雰囲気を懐かしむことができるように、そのまま残しておいてほしい。

勉強スペースにすることで、中高生も集まるようになるのではないかな。

図書館が和室になっていて落ち着くから、そのまま残しておきたい。和室を生かし、寝転ぶことができるような場所にすればいいのではないかな。



・利用時間やイベントの時期について

小中高生に利用してもらうなら、放課後や土日に開館したほうがいい。

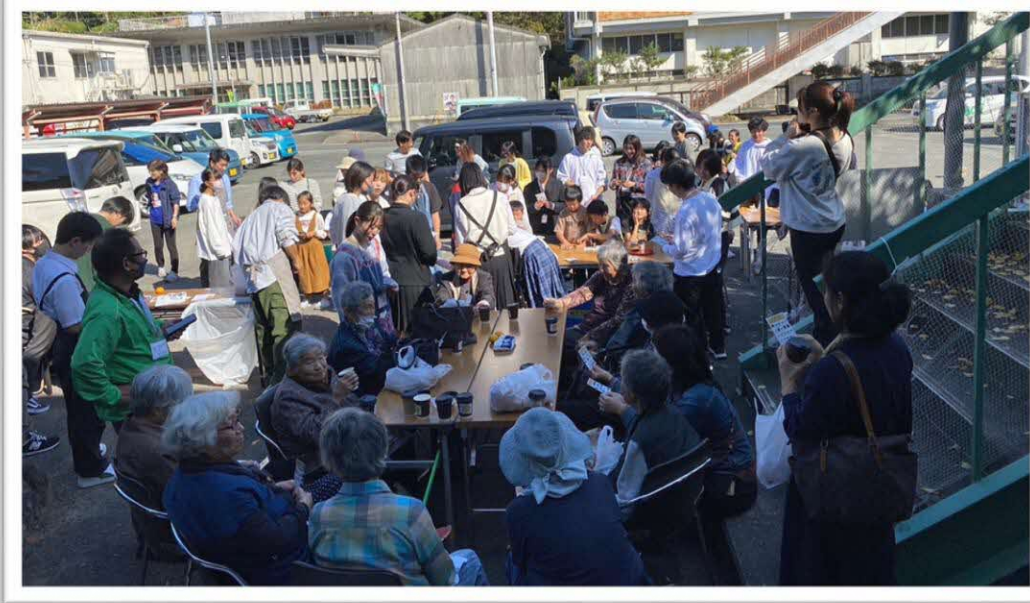
△誰が管理するのか。喜佐方はみかん農家が多く秋は忙しいので、秋のイベントは厳しい。

・避難所としての公民館

個室やシャワー室などを作り、使いやすい避難所になるようにしてほしい。



第4回は喜佐方公民館で行われたきさかたカフェのお手伝いを行い、聞き取り調査を行いました。私たちはモルックのお手伝いを行い、小中学生の声を聞いたりご高齢の方と関わったりしながら、どんな公民館にすればよいか考えました。



地域の中中学生

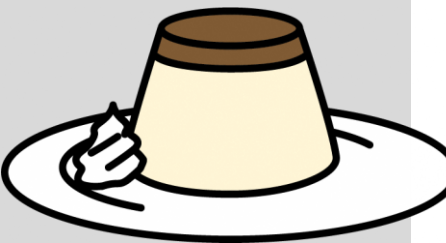
- ・ゲームセンター、ガチャガチャなど遊べるような場所が欲しい。
- ・放課後に自習ができる場所（ホリバタ・パフィオのようなところ）が宇和島にしかないから喜佐方にもあればいい。
- ・気軽に寄ることができるようにしてほしい。

子育て世代の人

- ・地域全体で子育てをしていけるような場所にしてほしい。
- ・子どもと一緒に利用できる場所がいい。

ご高齢の方

- ・地域全体で子育てをしていけるような場所が良い。
- ・どの年代でも来れるような場所にしてほしい。
- ・学校がなくなる事で活気がなくなるから、子供たちと関われる場所としての公民館になったらいいと思う。
- ・小学校がなくなるとフィールドワークができなくなると、学習でこの地域が使われなくなるから地域の風化してしまうと思う。



中高大生の提案

ヒアリングの内容

・子育ての拠点

習い事の発表会、親子参加型イベント、季節イベント、農業の体験など、子育てをしやすい地域をつくるための拠点になるような公民館にする。

・スポーツの拠点

スケートボードができる施設・バスケットゴールなど、学校のグラウンドを活用した設備の設置し、地域の人の交流の場所になるような公民館にする。

・子どもたちの居場所

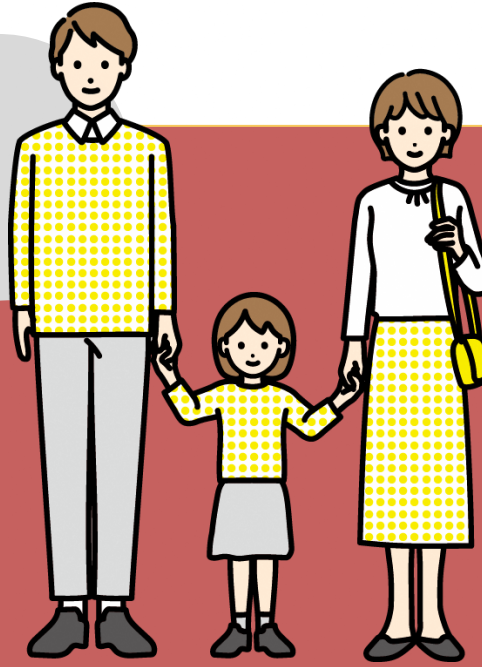
小中高生が自習ができるスペースにすることで、子供たちの放課後の居場所になれるような場所にする。地域の人とかかすることができる場所にする事で、世代を超えた交流ができる公民館にする。

・遊具ベンチの設置

誰でも休憩したり、話したりすることができる場所にする。

・農業関係者の呼び込み、技術指導

農業のノウハウを伝えあったり、みかん農家になってみたいという若者を支援するようなイベントを開催したり、応援窓口をつくる。



ヒアリングを受けての私たちの提案

子育ての拠点となる公民館 ～地域の子育ての中心に～

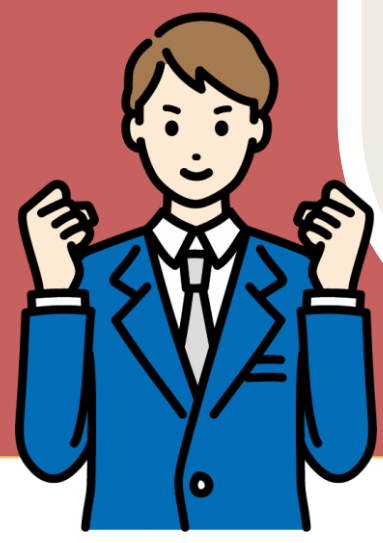
①子育て世代・親子の交流イベント

ママ友会
(現役ママだけでなく引退したママも集まって、子育てのノウハウを伝えあう)
乳幼児向けの映画観賞会
懐かしのヒット作鑑賞会
親子でみかん狩り体験

②子どもたちの居場所

自習スペース(放課後)
スポーツのできる空間(バスケ、スケボー)
読書スペース
カラオケスペース(音楽室)
遊具(ブランコ、シーソー)

学校がなくなることにより、子どもたちがいなくなって活気がなくなる事を配慮し、子育ての味方になれるような公民館の案を考えた。



プロジェクトを通して学んだこと

〇プロジェクトに参加して学んだこと

- ・地域の交流の大切さについて知ることができた。
- ・状況改善には地域の方のニーズを知る必要がある。
- ・世代によってニーズが異なるため、幅広い世代の声を聴き、公民館の改善案に活用する必要がある。
- ・地域の特色を踏まえて考える必要がある。
- ・今あるものをどう生かすか考えることの大切さを学んだ。



〇プロジェクトを通して考えたこと

- ・多くの世代の要求を踏まえた活動をしたい。
- ・世代間の交流の楽しさを知り、それをみんなに知ってもらいたい。
- ・公民館の人々をつなげる役割を地域の人が理解できていないので、自分の地域の公民館をもっと利用して地域に根差した公民館にしていきたい。
- ・公民館のあるべき姿について考えていきたい。
- ・今まで地域に目を向けてこなかったのが、地域を捉え直していきたい。

